

Oracle Portal

おもな機能と利点

機能

- Oracle WebCenter Servicesを介した豊富なEnterprise 2.0サービスの統合
- 業界標準の延長サポート
- ポートレット開発とアプリケーション開発の境界の排除
- BPPELベース・プロセスのコンテンツ・ルーティングおよび承認
- 新しいHTML文書型の宣言サポート
- ライフ・サイクル・サポートの強化
- ポータル・ページ、ポートレット、プロバイダに対するパフォーマンス・メトリックのリアルタイム表示
- Oracle Fusion MiddlewareおよびOracle Applicationsとの緊密な統合

利点

- 包括的でオープンな統合フレームワーク
- 高機能な宣言型環境による生産性の向上と、ビジネス・ユーザー、テクニカル・ユーザー、各分野の専門家を含むユーザー・ベースの拡大
- 堅牢なOracle WebCenter Services統合によるEnterprise 2.0機能とのユーザー・インタラクションの向上

Oracle Portalは、Oracle WebLogic Server上で実行されるエンタープライズ・ポータルを構築、配置、管理するための完全な統合フレームワークです。Oracle Portalを利用すると、統一されたセキュアな方法で重要な企業情報やサービスにアクセスできるため、ビジネスの可視性が高まり、協業が推進されるとともに、統合コストが削減され、投資が確実に保護されます。これにより、企業はスケーラブルでセキュアな標準主導の動的エンタープライズ・ポータルを迅速に構築、管理、配置できるようになります。

Oracle Portalの進化

Oracle Portalが提供するミッション・クリティカルなフレームワークはきめ細かく調整されており、コンテンツやデータへのアクセスを目的として何百万ものユーザーによって使用されています。Oracle Portalは、その開発当初から生産性と機能性を独自の方法で融合してきました。ウィザード・ベースのポータル開発アプローチにより、コストのかかるプログラミングやメンテナンスが最小化されるため、ポータルの構築および展開が迅速かつ簡単になります。最近では、柔軟性、拡張性、パフォーマンスをこれまでにない水準に引き上げることに重点を置いた改善が実施されています。Oracle Portalは比類のない生産性と使いやすさを提供し続けながら、製品を拡張するためのプログラミング・オプションを増やすことで、特異なビジネス要件への対応とビジネス・アプリケーションに対する容易な統合を可能にします。

WebLogic Serverプラットフォームがもたらすパフォーマンスの向上

Oracle Portalを実行するOracle WebLogic Serverは、スケーラブルでエンタープライズ対応のJava Platform, Enterprise Edition (J2EE) アプリケーション・サーバーです。J2EE、Webサービス、セキュリティに関するオープン・スタンダードに対する延長サポート、Oracle Real Application Clusters (Oracle RAC) およびOracle Enterprise Managerとの緊密かつ豊富な統合機能、Open Services Gateway Initiative (OSGi) テクノロジーの採用によるモジュール化の実現、Oracle Coherenceによる高可用性の実現、Oracle JRockit Java Virtual Machine (JVM) による卓越した実行時パフォーマンスなど、WebLogic Serverのさまざまな利点をOracle Portalは活用しています。また、WebLogic Serverは、Oracle Fusion MiddlewareおよびOracle Applicationsに対する認定インフラストラクチャの役割を果たします。

Oracle WebCenter Servicesがもたらす生産性の向上

Wiki、RSSフィード、ブログなどのWeb 2.0テクノロジーによりインターネット環境は大きな変化を遂げ、世界中のあらゆる場所で個人がそのメリットを享受できるようになりました。Oracle WebCenter Servicesを利用すると、エンタープライズ向けのWeb 2.0をOracle Portalに活用できます。Oracle WebCenter Servicesは、エンタープライズ対応の各種Web 2.0サービスを提供することにより、アプリケーション機能を拡張し、企業ポータルにおけるユーザー・エクスペリエンスを向上します。

¹ Oracle WebCenter ServicesはOracle WebCenter Suiteのコンポーネントとしても、スタンドアロン製品としても使用できます。

Oracle Portalでは、これらのサービスを簡単にポートレット化して消費できます。標準提供される認定ポートレット・プロデューサ (Java Specification Request (JSR) 168またはWeb Services for Remote Portlets (WSRP))がWebCenter Servicesのタスク・フローを利用し、Web 2.0サービスをOracle Portalへ統合します。Oracle Portalに統合できる主要なWeb 2.0サービスとしては、ソーシャル・ネットワークング、ディスカッション、Wiki、ブログ、プレゼンスおよびインスタント・メッセージング、RSSフィード、アクティビティに加えて、電子メール、Worklist、カレンダーなどのパーソナル・プロダクティビティ・サービスが挙げられます。

標準サポートの強化によるITの効率化

Oracle Portalは強力に標準をサポートしているため、開発スピードが向上するとともに、効率化が推進されます。Oracle Portalでは、ADFリッチ・クライアント・テクノロジーを使用して構築された豊富なAJAX対応ポートレットをはじめとして、JSR 168および170とWSRP 1.0および2.0を利用することによりポートレットとコンテンツを容易にOracle Portalに統合できます。さらに、Java Server Faces (JSF) Portlet Bridge標準であるJSR 301がサポートされているため、JSFアプリケーションを簡単に配置済みのOracle Portalに統合できます。Oracle WebCenter Servicesのライセンスを所有している場合、JSF Portlet Bridgeを使用できます。

Oracle Portalとコンテンツの堅牢な統合

大部分のポータル配置において、関連するコンテンツをシームレスに統合することは不可欠です。Oracle Portalでは、Document Libraryサービスを使用する標準ベース (JSR 168およびWSRP) のポートレットを消費して、Oracle Universal Content Managementサーバー上のコンテンツにアクセスできます。さらに、あらかじめ提供される標準ベースの認定ポートレットを介して、サード・パーティのコンテンツ管理システムから取得したコンテンツをOracle Portalに表示することもできます。より個別化したソリューションが必要である場合、Java Content Repository (JCR) アダプタを使用してコンテンツ管理システムに接続するカスタム・ポートレットをOracle JDeveloperで構築するとOracle Portalから簡単に消費できます。使用できるアダプタには、Oracle Universal Content Management、Oracle Content Database、ファイル・システムに加えて、Microsoft SharePoint、IBM Lotus Domino、EMC Documentumなどのサード・パーティのコンテンツ管理システム (個別のライセンスが必要) が含まれます。Oracle PortalのJCR 1.0アダプタを使用すると、Oracle Portalの外部にあるPortalメタデータ・リポジトリのコンテンツに直接アクセスできます。さらに、WebDAVを使用してOracle Portalのコンテンツをエンタープライズ・コンテンツ・リポジトリに移動すると、このコンテンツへの全社的なアクセスが可能になります。

コア・ポータル機能の拡張と管理の簡素化

ポータルを管理する際、Oracle Portalのネイティブ機能を使用することもできますが、Oracle BPELワークフローを利用してOracle Portalの管理コンテンツをルーティングおよび承認することもできます。また、Oracle Portalが生成するHTML出力型にはHTML 4.01 Transitional、HTML 4.01 Strict、XHTML 1.0 Transitional、XHTML 1.0 Strictの4種類があり、ポータル管理者が希望する出力型を選択できます。管理作業を簡素化するため、Oracle PortalはOracle Enterprise Manager Fusion Middleware Control 11gと統合されています。この製品には、ポータル・コンポーネントの監視および構成、ポータル・ページ、ポートレット、プロバイダのパフォーマンス・メトリックのリアルタイム表示、Oracle Enterprise Managerインタフェースの使用において、多くの重要な新機能が導入されています。

² Oracle WebCenter Servicesを購入する必要があります。

ライフ・サイクル・サポートの強化による信頼性の向上

コンテンツ中心のエクスポートを頻繁に実行する場合、2段階のポータル・エクスポート/インポート・モデルが役立ちます。このエクスポート/インポート・モデルでは、ソースとターゲットのポータル・インスタンス間に設定されたデータベース・リンクが利用されるため、ソース・インスタンスからターゲット・インスタンスへと、コマンドラインを介して手動でエクスポート・ファイルを送信する必要はありません。エクスポートおよびインポートの操作はすべてWebブラウザ内で実行できます。また、生成されるエクスポート・ログ・ファイルの書式が改善されたため、エクスポート結果やトラブルシューティング情報の把握が容易になります。さらに、ユーザー・インタフェースに直接アクセスできるため、エクスポートおよびインポートする転送セットの管理および監視も容易になります。エクスポート/インポート・ユーティリティにはOracle Portal向けの拡張機能が含まれており、事前チェックスキーマ検証ユニット、エラー・ロギング、ユーザー・ガイダンス、エクスポート、ユーザー・インタフェースが改善されているとともに、新しいローニング機能が追加されています。

セキュリティの簡素化と拡張

Oracle PortalはOracle Identity Management Suiteと統合されており、基盤であるOracle WebLogic Serverプラットフォームの堅牢なセキュリティ機能を活用しています。Oracle PortalはJ2EEアプリケーションに推奨される戦略に従って、Oracle SSO向けのmod_osso認証モジュールを使用しています。また、Web Services (WS) -Securityがサポートされているため、WS-SecurityによるWSRPプロデューサの保護と、ID伝播のための適切なトークン・タイプ選択が容易になります。さらに、Oracle Internet Directoryとの統合が最適化されているため、ログイン・パフォーマンスを調整して、グループ内でのプロビジョニング変更をユーザー認可に反映させる速度を指定できます。上述の機能は、Oracle Portalがセキュリティに関するベスト・プラクティスに準拠していることを体現するものです。

OracleテクノロジーおよびOracle Applicationsとの緊密な統合

Oracle Portalでは、Oracle Fusion Middlewareコンポーネントとの包括的な統合機能が標準で提供されています。また、企業リソース全体の包括的な検索結果を提供するOracle Secure Enterprise Search、ビジネス・プロセス通知、タスク分析、レポートに対して完全性の高いビューを提供するOracle BPEL、さらに組織の競争力維持に必要なインテリジェンスを提供するOracle Business Intelligence Enterprise Edition (Siebel BI Tools) およびHyperion System 9 Business Performance Managementなどのポートレットが新しくサーティファイされています (該当するOracle Fusion Middlewareコンポーネント経由のライセンス供与)。

標準提供されているOracle Applicationsとの統合機能により、Oracle Portalの強力な相互運用性がさらに強化されています。おもな統合対象としては、PeopleSoft Enterprise Applications Release 9とWSRPベースのPeopleSoft Release 9ポートレット・セットやOracle E-Business Suite (Oracle EBS) 12.1とJSR 168またはWSRP 1.0ベースのポートレットに加えて、Oracle E-Business Suite 11iのJPDKポートレットやJD Edwards 8.95とFDAベースのポートレットが挙げられます。WebサービスおよびJSR 227ベースのデータ・コントロールを使用するADFタスク・フローを利用すると、エンタープライズ・アプリケーション (Oracle EBS、PeopleSoft、Siebel、JD Edwards、Oracle Agile、Oracle Retail) から取得したコンテンツを表示できます。さらに、Oracle JSF Portlet Bridgeを使用してこれらのタスク・フローをポートレット化すると、Oracle Portalで消費できます。

Oracle Portalがもたらす最大の可視性と投資の保護

Oracle Portalは、全社レベルと事業別の両方のポータルWebインタフェースの作成、情報の公開および管理、動的なデータへのアクセス、さらにポータル・エクスペリエンスのカスタマイズを行うための高機能な宣言型環境に加えて、J2EEベースのアプリケーション・アクセス向けの拡張可能フレームワークを提供します。Oracle Portalのホット・プラグ機能に対して、Oracle WebCenter Servicesやその他のOracle Fusion Middleware製品およびOracle Applicationsを組み合わせると、重要な企業リソースにアクセスできるため、ビジネスの可視性が高まり、統合コストが削減され、投資が確実に保護されます。

お問い合わせ

Oracle Portalについて、詳しくはoracle.comを参照するか、+1.800.ORACLE1でオラクルの担当者にお問い合わせください。



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracleは米国Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。0109